

## 会 議 錄

会議名 (審議会等名)		第8期第5回相模原市中央区区民会議（グループA）							
事務局 (担当課)		中央区役所区政策課 電話 042-769-9802 (直通)							
開催日時		令和7年10月29日（水） 9時45分～11時30分							
開催場所		相模原市立産業会館 4階 特別会議室							
出席者	委 員	7人（別紙のとおり）							
	その他の	0人							
	事務局	2人（区政策課職員）							
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数 0人				
公開不可・一部不可の場合は、その理由									
会議次第	<p>開 会</p> <p>1 議題</p> <p>(1) 中央区基本計画の取組状況の検証について  <input type="radio"/>グループA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組目標I：健やかに育ち、共に学び、共に高め合っている            ⇒【子育て・教育】【生涯学習・社会教育】</li> <li>・取組目標II：自分らしく、いきいきと暮らしている            ⇒【福祉、高齢者、貧困】、【人権・男女、障害者、国際化】、【健康、医療】</li> </ul> <p>閉 会</p>								

主な内容は次のとおり。

## 開 会

事務局から、運営に係る事務説明を行った。

—傍聴希望者 なし—

### 1 議題

中央区基本計画の取組状況の検証について

事務局よりグループワーク参考資料を配布、説明し、グループワークを行った。

主な意見等は以下のとおり。

## ■取組の方向II－1 ①地域ネットワークの充実

(高橋委員)

次の社会参加の項目にも関係してくると思うが、社会福祉協議会中央区連絡会では、昨年から実施している事業で、パラリンピック競技にもなっている「ボッチャ」を中央区の9つの地域が集まって開催した。参加チームは9つの地域で各2チーム+特別招待で障害者施設から2チームの計20チームの総当たり制で行った。けやき会館を会場とし、各チーム定員4人で競技を行ったが、当日は選手の応援チームも参加し、楽しい一時を過ごすことができた。開催の目的でもある健康増進や地域の人々が集まり交流することができたと感じている。

(八木委員)

星が丘地区では公民館のスポーツ委員会が主体となって、「ボッチャ」や「モルック」を始めとしたニューススポーツ大会を開催している。現在は自治会単位でのスポーツ大会等の開催はなくなり、大会を行いたい有志が集まって開催するような形となってしまっている。そのため、地域ネットワークは年々希薄になっていると感じている。情報伝達の面でも、スマホで自治会の回覧板が見れるようになってはいるが、高齢者はスマホを使えないで、どうすれば情報を伝えることができるかが課題となっている。年に2回ほど、高齢者を対象としたスマホ教室を開催しているが、実際には、スマホのアプリ一つを入れるにしても億劫になってしまふことも散見されるので、多方面から情報提供をする必要がある。

(吉田委員)

情報提供する側の情報量が昔と比べ、現在は圧倒的に多くなっていると感じる。今後、掲示板を始めとした紙の媒体はなくしていきたいと思っている。背景として、紙ベースは目に入りやすいというメリットがある一方、掲示板を例に挙げると個人情報を始めとした安全上の問題や老朽化等の懸念事項がある。これからはウェブサイトやスマホ、アプリなどで全般的な情報提示・情報共有を進めていかないと仕事や子育てに忙しい世代に情報が伝わらないと思う。横山地区のまちづくり会議の伝達についても、ラインの公式アカウントを使った連絡やチラシ、議事録の公開をしている。何一つ欠落することのない情報提供が情報発信する側において重要だと感じており、どのような形であれ、情報を見られる環境を徹底して整備していくことが責任だと思っている。

(清水委員)

保育園や認定こども園はホームページを持っているが、上溝地区にある私どもの保育園では子育て通信として「ひろばだより」を紙ベースで年に3～4回発行しており、子育てに関する情報やイベント情報を載せている。卒園児の両親や高齢者ボランティアにも協力してもらい、自治会に加入していない世帯なども含めた全世帯に配布を行っている。今年で35年ほど経つが、配布開始時には7,000枚ほど刷っていたが、受け取り拒否やマンションの関係者以外立ち入り禁止の看板設置などにより、配布ができないことが多々あったことから現在の印刷枚数は6,000枚を切っている。様々な情報を提供したい反面、情報を受け取ってもらえないことが課題となっている。

(吉田委員)

昔は自治会に発信したい情報を提供していれば、自治会の加入率も高かったことから情報提供ができていたが、現在は加入率自体が低いことから、昔と同じようなやり方ではなく、今までとは違う環境整備が必要だと感じる。

(事務局)

スポーツ大会等を通じて地域ネットワークの構築を試みるも、最近は自治会単位などではなく、有志のみの集まりに切り替わっているのが現状ということが見えてきた。また、地域ネットワークを構築するための契機としての情報提供としても様々な課題があるようだ。

## ■取組の方向II－1 ②高齢者の社会参加支援

(高橋委員)

社協ではコミュニティ形成事業というものがあり、その中で下九沢方面と横山方面の2拠点で様々な活動を行っている。100歳体操やボッチャ、輪投げなどを定期的に行っている。100歳体操は、参加者の中で色々なグループが立ち上がり、交流の場が形成されている。また、現在の活動拠点となっている県営住宅の集会場は、当時管理者が高齢ということで長期間にわたり管理がされていない上、草が生い茂って野ざらし状態であった。社協としても活動拠点を探していく状態であったので、社協が借りる代わりに環境整備を行うといった相互にメリットのある条件で活動拠点を決めることができた。集会場では、6～7人の高齢者が集まり「ガーデニングスターズ」というグループで園芸を楽しんでいる。もう1点として、学校との連携も深めており、清新中学校の生徒と一緒に毎年、11～12月頃に花植えを行っている。

(吉田委員)

高齢者でも元気に外で活動しているときはいいが、時間の経過とともに今までできていたことができなくなってくるのは避けて通れないことだと思う。今後は、次に高齢者になる世代の参画支援を行う仕組みを考えていく必要がある。地域社会への参画が遅れれば遅れるほど、自身の孤立に繋がってしまうので、次の高齢者になる世代の50歳以上が参画する仕組みを整備する必要があると感じる。若い世代は人口比率的に少ないので、すべてを担わせるのは違う。次の高齢者になる世代が地域社会の参画を行い、課題認識を持つ必要がある。

(八木委員)

星が丘地区でも、全自治会の集会所で100歳体操を開催し、星が丘・横山・千代田地域にて高齢者を対象に月に一度、「憩いの場」を設けている。しかし、参加者は自分から社会参加をする人だけで、それ以外の一人暮らし高齢者の多くは参加しない傾向にある。チラシを持参し、個々に自宅を訪問しても、一緒に同行して行くとなれば参加するが、一人で参加するように呼び掛けた途端、参加が途絶えてしまう場合が多い。特に男性がこのパターンになりやすい。

(事務局)

各地域において様々な活動を行っている一方、活動に参加して来ない高齢者をどのように社会参加させるかが課題となっていることがわかった。また、次の高齢者世代となる層の協力をどのように得ていくかについて課題認識があるようだ。

## ■取組の方向II－2 ①人権の尊重と男女共同参画社会の実現

(中牟田委員)

朝日新聞にも先日取り上げられたが、人権すごろくという企画を実施した。桜美林大学の学生など若い世代も参加してもらったが、世代間のギャップに驚いた。昔は、「女は家事をやるのが当たり前」「男の子が生まれたら喜ばれる」などの風潮があったが、現在は、男女平等が当たり前と考えている人が多いことが改めてわかった。他にも、婦人会で子育て相談の取り組みも行つ

ている。

(高橋委員)

自身は民生委員をやっているが、民生委員になった当時は男女比が男性3割・女性は7割ほどであり、社協の役員男女比も同じくらいであった。しかし、最近は男女比が逆転している傾向にある。昔と男女構成比は違えど、男女それぞれ得意なことを活かしながら生き活きと活動していると思う。

(八木委員)

自治会の役員決めは女性の割合が多いが、自治会長は男性の方が多い。民生委員については、星が丘地区の場合、女性の方が6～7割・社協の役員は男女半々であるが意図的な構成比になっているわけではないと思う。

(原田委員)

女性の患者さんを男性の看護師が対応することに関して嫌がる方がいらしたり、女性の患者さんは女性の看護師が対応するのが当たり前のような風潮はある。状況によっては同性が対応するのが正しい場合もあるのでその判断が非常に難しい。また人権尊重の面としては、患者をモノのように扱うのは当然よくないし、昔は実験の被験者のように扱う風潮もあったようだが、当然人としての尊厳を尊重した上で患者と向き合う必要があると思っている。

(清水委員)

園には40人近く職員がいる中で男性保育士は7人在籍となっている。園児の人権や保護者からの意見を考慮し、男性保育士を配置していないクラスもある。男性保育士には、こういった状況を理解してもらいながら運営している。

(事務局)

男女共同参画ということで男女平等で就労すべきであるが、看護師や保育士などの現場では、男女比に偏りが発生している状況があり、また、相手方を考慮し、男性もしくは女性が対応しなければならない場面もある。

## ■取組の方向II－2 ②バリアフリー環境の充実

(高橋委員)

地域ケア会議の中に地域づくり部会という組織があり、その中の事案で訪問介護の際に駐車場がなく、車を止める場所がないという問題が発生しており、駐車場を用意してほしいとの要望の声があった。そこで、日中使用されていない団地の駐車場や個人住宅の駐車場を無償で借りることができないかについて話を進めてきた。今年、中央区の地域活性化交付金の申請が降り、駐車場となる目印の看板も立てることができた上、横山地区だけで約70か所の無料貸し出し駐車場を確保することができた。昔は、訪問介護の相手方に行った際に、駐車場がなく、路上駐車をせざるを得ない状況の中で、警察に捕まってしまうなどの問題があったが、その問題が解消された。横山地区でスタートしたものであるが、星が丘地区や光が丘地区から来た訪問介護でも無償で駐車場を利用してもらっており、バリアフリーと直接結びつくかは断言できないがオープンな形で提供させてもらっている。

(八木委員)

星が丘地区でも、横山地区の事例を参考に検討していたが、訪問介護の事業所にアンケート実施したところ、訪問介護に関する駐車場の確保は困っていないとの回答が多かった。また地域の中には駐車禁止になっていないところも多いので、すぐに必要となるわけではないが、将来的な方針としては、いずれ必要になるだろうということで、今年度無償駐車場の整備について動いていく方針。

## ■取組の方向II－3 ②安心できる医療体制の充実

(中牟田委員)

自分に合うかかりつけ医を見つけ、健康診断をきちんと受けることだと思う。

(原田委員)

健康診断を受けるのが病気の早期発見に繋がるが、ちゃんと受ける人は少ない。特に自営業の方などが加入する国民健康保険加入者が多く該当する。その要因として、自分は大丈夫だろうという意識からくるものだと感じる。医師会としてもいかに多くの人に健康診断を受けてもらうことが課題。マイナ保険を使えば、どこの病院でも自分が今までにどのような病気にり患し、どういった薬を処方してもらっているかなどの詳細情報がわかるので利用してもらいたい。働き方改革により、夜間の出勤が制限されていることから、患者には不便をかけているところはあると感じている。そのような人員が限られている中では、ちょっとしたことで病院受診したりするのは控えるなどの意識改革も必要と感じる。

閉 会

以 上

第8期第5回相模原市中央区区民会議（グループA） 委員出欠席名簿

No.	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	中牟田好江	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら		出席
2	藤田 寛之	相模原市P T A連絡協議会		欠席
3	清水 洋子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席
4	高橋 年廣	相模原市地区社会福祉協議会中央区連絡会		出席
5	原田 克也	一般社団法人相模原市医師会		出席
6	浅野 由佳	公募委員		出席
7	八木 鉄雄	星が丘地区まちづくり会議		出席
8	吉田 貴亮	横山地区まちづくり会議		出席
9	割柏 秀規	光が丘地区まちづくり会議		欠席